

第4編 成果と課題

【目次】

第1章	沼田市教育行政方針評価（学校教育）	134
第2章	第13次教育水準向上研究＜第1年次＞の成果と課題	139
	令和6年度の研究指定等	140
編集後記		140

令和6年度沼田市教育行政方針評価（学校教育）

【評価について】

- 1 評価者（全117名）
 - 各小中学校6名（校長・教頭・教務主任・研修主任・職員代表2名）
 - 各幼稚園 3名（園長・職員代表2名）
- 2 評価項目
 - 全49項目（沼田市教育行政方針「重点施策1」について）
- 3 評価方法
 - 自校・園の取組について「実現度」による評価
（4：できている 3：おおむねできている 2：あまりできていない 1：できていない）
- 4 評価平均について 太字…3.4以上 網掛け…3.0未満 下線…前年度より上昇したもの

1. 「基本方針1」(教育水準の向上を目指す学校教育の充実)について

教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
		4	3	2	1
一人一人のよさを大切にし、社会の変化に主体的に関わり、未来社会を切り拓く力を身に付けた子供を育てるために、「第13次沼田市教育水準向上研究」(第1年次)を中心に、家庭・地域・関係機関等との連携・協働を図りつつ、全市をあげて教育実践に努めます。	3.32	39.4%	54.1%	5.5%	1%

2. 「重点施策1」について

(1) 学校(幼稚園)経営の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	校長(園長)のリーダーシップによる経営方針の明確化と各主任を中心とした全校的な組織体制の確立	3.55	58.1%	39.3%	1.7%	0.9%
イ	「自然災害等対応マニュアルぬまた」及び「沼田市通学路安全プログラム」を踏まえ、関係機関と連携し、子供を守り育てる実効的な危機管理体制の充実(「セイフティ沼田」※)	3.48	51.3%	45.3%	3.4%	0.0%
ウ	「勤務時間の適正な管理並びに総労働時間短縮のための指針」を踏まえ、教職員の働き方改革に向けた労働安全衛生管理体制の整備と具体的な取組の推進	3.20	32.5%	56.4%	9.4%	1.7%
エ	学びの連続性を踏まえた幼小中連携の充実(幼小中連携※)	<u>3.10</u>	26.5%	58.1%	14.5%	0.9%
オ	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進とカリキュラムマネジメントの充実	3.38	39.3%	59.8%	0.9%	0.0%
カ	自校園の喫緊の教育課題解決に向けた校内(園内)研修の計画的な実施	3.51	55.6%	41.0%	2.6%	0.9%
キ	信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保	3.59	60.7%	38.5%	0.0%	0.9%
考察	7項目中4項目の評価平均が3.4以上であった。「ア」については、自由記述の中でも肯定的な回答が多数を占め、今年度も、各学校園の校長・園長がリーダーシップを発揮して明確な経営方針を具体的に示し、各主任が中心となった組織的な取組を推進することができたと考えられる。「イ」については、今年度「セイフティぬまた」に関わる資料を整理してより実効性のあるマニュアルへと修正した。「キ」は今年度も高い評価であったが、各学校園が「信頼される学校」を目指して、教職員の資質向上や服務規律の確保に力を入れていることが伺える。「エ」については、他の項目より低めではあるものの、昨年度より評価が高くなり、11月に実施した「幼保こ小関連教育推進事業」で学びの連続性をテーマに協議した成果と考える。					

(2) 家庭や地域社会、関係機関等との連携・協働

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	家庭や地域社会と連携・協働した教育課程の編成・実施・評価 〔「社会に開かれた教育課程」の実現〕	3.47	50.4%	46.2%	3.4%	0.0%
イ	各種教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用	3.59	61.5%	35.9%	2.6%	0.0%
ウ	不登校や問題行動、貧困問題などの生徒指導や特別支援教育等 において、専門性をもった関係機関との連携や組織的・協働的な 課題の解決	3.52	53.8%	45.3%	0.0%	0.9%
エ	学校及び地域課題の解決に向け、学校と地域がパートナーとして 連携・協働するコミュニティ・スクールの取組の推進 【第13次からの追加項目】	3.31	39.1%	53.6%	6.4%	0.9%
考察	<p>「ア」「イ」「ウ」全てが、昨年度より評価平均が大きく上昇している。「ア」「イ」については、今年度はさらに、コロナ禍では難しかった外部との交流を含めた様々な活動が可能となったことと全小中学校によるコミュニティ・スクール設置の動きにより、地域の人的・物的資源の積極的活用が図られてきているためと考える。今の取組が継続すれば、「エ」の評価平均も上昇してくることが期待される。「ウ」については、SC、SSW、自立支援アドバイザーや特別支援教育専門家チーム等の関係機関などから専門的な助言を得るなど、各学校園ともに積極的な連携、課題解決に向けた組織的な対応を継続できている様子が伺える。</p>					

(3) 社会の変化に対応する教育の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育の充実(キャリア・パスポートの活用)	3.03	19.7%	65.8%	12.8%	1.7%
イ	郷土の豊かな自然、先人たちが築いた歴史や文化に触れ、ふるさと沼田に誇りと愛着をもち、郷土愛を育む教育の推進(「ぬまた未来創造学」の推進※)	3.43	45.3%	52.1%	2.6%	0.0%
ウ	外国語指導助手(ALT)との生きたコミュニケーションにより、小学校から中学校への学びの連続性や指導の系統性を意識した、外国語活動及び英語科授業の充実と国際的な視野をもつ児童生徒の育成	3.34	37.8%	58.6%	3.6%	0.0%
エ	環境教育の視点を踏まえた体験的活動の実施と各教科等における指導の継続	3.13	25.6%	61.5%	12.8%	0.0%
オ	数値化して評価できる認知能力に加え、意欲やコミュニケーション力など数値化できない能力も伸ばし、子供の力を最大限引き出す教育活動の研究・実践【第13次からの追加項目】	3.14	26.7%	61.2%	11.2%	0.9%
考察	<p>「イ」については評価平均が昨年度から上昇した。今年度から本格実施となった「ぬまた未来創造学」推進に向けて、多くの学校園が総合的な学習の時間等の年間指導計画の見直しを図り、地域と連携・協働した授業づくりを進めていることが伺える。「エ」については、他の項目より低めではあるものの、昨年度より評価が大きく上昇している。今年度は小学校4年生において「たんばら森林の学校」が実施され、児童がふるさとの自然環境に触れる機会が増えたことも要因の1つと考える。「オ」については、第13次からの追加項目である。非認知能力の育成については、指定校である「沼田小学校」「池田小学校」の取組を参考に、推進していく必要がある。(3)においてはいずれも「2」の割合がやや高い。全教職員の共通理解の下、各学校園の実情に応じた取組を推進していく必要がある。</p>					

(4) 確かな学力の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、子供たちの能力を最大限に引き出す授業の実践【第13次からの追加項目】	3.23	25.2%	72.1%	2.7%	0.0%
イ	各教科等において育成する資質・能力を明確にして、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想	3.35	35.1%	64.9%	0.0%	0.0%
ウ	児童生徒にめあてと見通しをもたせたり、学びを振り返って次につなげたりする授業づくりを意識するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実	3.39	38.7%	61.3%	0.0%	0.0%
エ	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」及び現代的な諸課題への対応で求められる資質・能力の育成を図るための探究的な学習活動の充実	3.13	16.2%	80.2%	3.6%	0.0%
オ	1人1台端末等のICT環境を効果的に活用し、「分かる・できる・学び合う」授業の創造	3.33	35.1%	63.1%	1.8%	0.0%
カ	学力検査等の分析や日常的的確な実態把握に基づく、各教科における個に応じたきめ細かな指導の充実	3.29	29.7%	69.4%	0.9%	0.0%
キ	家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫と保護者との連携	3.16	22.5%	71.2%	6.3%	0.0%
考察	<p>市教委から新たな方針となる「2024 学力向上対策」を掲げ、「先生の日」に市内全教職員に説明するとともに、学力向上対策フォーラムでは、その重点を指導主事から提言したり、校長会では授業参観のポイントを提示したりするなどして周知に努めたところ、市の方針に沿った組織的・計画的な研修や授業改善、学力向上対策が推進されたこと伺える。「対話と交流」を授業改善に取り入れた校内研修の推進が多くの小中学校で見られたが、「考えを深める」児童生徒の姿まで到達できないことが課題となっている。ICTを活用した授業は増加傾向にあるものの、各教科等の学びの本質に迫るためのICTの効果的な活用には課題が残る。取組の初年度であったので、「4」より「3」の評価をした割合が高いと考えられることから、第2年次は、引き続き、市教委方針となる「学力向上対策」の共通理解を図り、より一層の充実が図れるように努めていく。</p>					

(5) 豊かな心の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備の推進と、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために道徳科の授業を要とした教育活動全体を通して行う道徳教育の推進	3.25	29.9%	66.7%	1.7%	1.7%
イ	「考え・議論する」道徳の時間の質的な充実に向けた指導の工夫	3.16	23.4%	69.4%	7.2%	0.0%
ウ	「沼田市人権教育推進方針」に基づく教育活動全体を通じた組織的な人権教育の推進	3.36	40.2%	55.6%	4.3%	0.0%
エ	体験的な学習活動やボランティア活動を通して、互いに協力し合おうとする態度の育成を目指した福祉教育の推進	3.36	39.3%	57.3%	3.4%	0.0%
オ	「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識した特別活動の充実	3.16	22.5%	71.2%	6.3%	0.0%
カ	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実(「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用)(「児童生徒の命を守り、育てる教育」※)	3.37	40.2%	56.4%	3.4%	0.0%
考察	<p>「ア」「イ」「ウ」については、昨年度とほぼ同程度の評価であった。「ア」の「特別な教科 道徳」については、約7割が「3」の評価であり、教科化となって数年が経過したが、道徳の授業のさらなる「充実」に向けての取組が求められる。「ウ」の「人権教育」については、各小中学校が人権週間の取組を工夫したり、沼田東小学校の「地区別人権教育研究協議会」の取組を参考にしたりして、充実を努めている。「エ」「オ」「カ」については、昨年度より評価が向上した。「オ」については他の項目より低めではあるものの、昨年度より評価が高くなり、学級活動の授業改善等、特別活動の充実に向けた取組が推進されたことが伺える。「カ」については、「SOSの出し方に関する教育」を推進して自由記述が複数の学校から見られた。</p>					

(6) 健やかな体の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実、及び感染症対策の徹底	3.56	57.3%	41.9%	0.9%	0.0%
イ	栄養教諭等を活用した食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育の充実	<u>3.18</u>	32.5%	53.8%	12.8%	0.9%
ウ	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	3.36	40.2%	55.6%	4.3%	0.0%
エ	中学校における部活動の適切な指導の実施と、「心＝道徳面」を重視した道徳的実践の場としての活動の充実(教育部活※)	3.34	43.3%	49.3%	6.0%	1.5%
オ	「部活動地域展開推進計画」を踏まえ、部活動の地域展開(地域移行・地域連携)により、地域や学校の実情に応じた持続可能な環境の整備【第13次からの追加項目】	2.34	10.8%	33.3%	35.1%	20.7%
カ	子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	3.35	37.9%	59.5%	2.6%	0.0%
考察	<p>学校園を通して、養護教諭、安全主任、体育主任等を中心に、組織的に、心身の健康の保持増進や、実効的な安全教育の推進が図られていることが自由記述からも伺える。「イ」については、他の項目より低めではあるものの昨年度より評価が高くなり、栄養教諭等も活用しながら食育を推進していることが伺える。「ウ」「カ」については、昨年度とほぼ同程度の評価であった。「ウ」については、教科体育の充実に加え、業前や業間の時間を生かした運動の機会づくり、家庭との連携、学校保健委員会の取組など、各学校園で創意工夫をこらした取組がなされた。「オ」については、今年度から新たに項立てされたものである。「部活動の地域展開の難しさや課題」を感じている自由記述が複数あり、今後も引き続き、地域や学校の実態に応じた持続可能な環境の整備の推進が求められる。</p>					

(7) 生徒指導の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	日々の授業や行事など学校生活全体における、生徒指導の実践上の視点(自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安心・安全な風土)を生かした指導・支援	3.45	54.8%	38.1%	4.8%	2.4%
イ	いじめ防止基本方針を踏まえた未然防止・早期発見・適切な対応・認知と解消の徹底及び児童生徒主体のいじめ防止活動の充実	3.50	60.0%	33.6%	3.2%	3.2%
ウ	不登校の未然防止や不登校傾向児童生徒への初期対応等、課題予防的生徒指導の徹底と関係機関との協働体制による教育相談活動の充実	3.42	51.2%	41.6%	4.8%	2.4%
エ	インターネットの利用にかかわるトラブルを防ぐ情報モラル教育の充実と家庭・地域への啓発活動の推進(「沼田市SNSルール」※)	3.23	35.8%	53.3%	8.3%	2.5%
考察	<p>今年度は、昨年度より評価平均は下がっているものの、多くの項目で高い評価が得られた。管理職や生徒指導主事・主任を中心とした全教職員による組織的な対応、外部機関との連携、生徒指導提言を踏まえた指導・支援が推進されていることが伺える。「イ」「ウ」については、引き続き未然防止に努めていく。不登校においては、本市における喫緊の課題となっているので、教育支援センターやフリースクールとの連携を図りつつ、児童生徒、保護者に寄り添った適切な対応を継続していく必要がある。「エ」については、外部機関と連携した情報モラル講習会の実施や、児童生徒が主体となったSNSルールの啓発、家庭との連携など行われているが、今後も各学校の実情に応じた具体的な取組を進めていく必要がある。また、「沼田市SNSルール」の見直しについては、「いじめ防止子ども会議」や「SNSルール検討委員会」等で協議しながら修正案を作成していく。</p>					

(8) 特別支援教育の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた中・長期的な支援の充実	3.47	50.4%	47.0%	1.7%	0.9%
イ	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の強化と交流及び 共同学習の推進	3.50	53.0%	43.6%	3.4%	0.0%
ウ	通常学級における気になる子供に対する指導の工夫と適切な対応	3.33	39.6%	55.0%	4.5%	0.9%
エ	一人一人の実態や教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行うための体制整備【第13次からの追加項目】	3.33	38.3%	56.5%	5.2%	0.0%
オ	関係機関との連携を深め、教育支援委員会における教育支援及び就学指導の充実【第13次からの追加項目】	3.46	47.0%	52.2%	0.9%	0.0%
考察	<p>今年度も「ア」「イ」において高い評価となった。特別支援教育コーディネーターが中心となり、日々の情報共有と共通理解が図られているとともに、校内教育支援委員会の計画的な実施、必要に応じたケース会議の開催、外部機関との連携、研修の実施等により、組織的な支援の充実が図られている様子が自由記述にも多く挙げられている。しかし、「ウ」については評価が下がっている。特別な支援を必要とする幼児児童生徒は増加傾向にあり、その支援の仕方について課題を抱えている学校園が増えている。個々の障害への理解、適切な対応や支援の方法、支援体制の強化等、より一層の充実が求められる。</p>					

(9) 読書活動の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学校や家庭における読書習慣づくりの推進及び読書活動の充実(「家族で本を読みましよう」※)	3.04	23.9%	58.1%	16.2%	1.7%
イ	図書資料を利活用した学習活動を充実させるための学校図書館の充実と、沼田市立図書館との連携による本に親しむ環境整備	2.94	19.7%	56.4%	22.2%	1.7%
考察	<p>評価平均は低い状況が続いている。自由記述からは、朝読書の継続、教職員や図書委員会による本の紹介やイベントの開催、保護者やボランティアによる読み聞かせ、家庭との連携、図書室の整備、沼田市立図書館の移動図書の利用等、各学校園の実情に応じた工夫や継続した取組により成果を上げている学校園が見られる。特に、幼稚園においては評価平均が非常に高く、幼児や保護者への絵本の貸出の仕方を工夫したり絵本部屋の環境整備をしたりするなど積極的な取組が推進された。引き続き、各学校園の状況や発達の段階に応じて、幼児児童生徒の主体的な読書活動を支援していく必要がある。</p>					

(10) 教育研究所の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	第13次沼田市教育水準向上研究の具現化を目指した教師の資質向上に資するための実践的な班別研究の推進	3.37	38.7%	59.5%	1.8%	0.0%
イ	不登校や障害等、発達の課題を抱える子供やその保護者に対する教育相談の推進と関係機関との連携	3.51	52.6%	46.3%	0.0%	1.1%
ウ	教育支援センター「きずな」や「ことばの教室」における各校園との連携を生かし、多様なニーズに対応した適切な支援体制の充実	3.63	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%
考察	<p>今年度は、全項目において評価平均が向上した。特に「イ」「ウ」については、自由記述にも、学校の状況を踏まえた対応、児童生徒の実態に応じた柔軟なきめ細かな支援、保護者への適切な助言や支援がなされ、「きずな」が児童生徒が安心して過ごせる場所となっていることが書かれている。今年度は、「きずな」のパンフレットを改訂したり、電話等で相談しにくい保護者のためにQRコードから問合せができるように「きずな」カードを作成したりして、啓発に努めた。「ア」の班別研究について、今年度は、(4)「エ」に関わる「問題発見・解決能力」の育成に係る実践研究として、「ぬまた未来創造学」について実践された。研究所の授業公開を教育水準向上研究授業研究会で実践した授業では、多くの教職員がその取組を参観することができた。</p>					

第13次沼田市教育水準向上研究（第1年次）の成果と課題

1 評価結果

領域	教育行政方針との関連No.	学校教育の重点	評価平均	評価の割合			
				4	3	2	1
確かな学力	4ウ	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力等」や現代的な諸課題に対して求められる資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。特に、市教委作成の「学力向上対策」について全ての教員で共通理解を図り、「学び合い」と「振り返り」を大切に授業の質的改善を目指す。	3.39	38.7%	61.3%	0.0%	0.0%
	4エ		3.13	16.2%	80.2%	3.6%	0.0%
	4ア	一人一台端末等のICT環境を効果的に活用し、子供たちの能力を最大限に引き出す授業を行い、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	3.23	25.2%	72.1%	2.7%	0.0%
	4オ		3.33	35.1%	63.1%	1.8%	0.0%
	4カ	学力検査等の分析や日常的確実な実態把握に基づく、各教科における個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。	3.29	29.7%	69.4%	0.9%	0.0%
豊かな心	5ア	道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備の推進を図り、教育活動全体を通じた道徳教育及び「特別の教科 道徳」の充実をめぐる。	3.25	29.9%	66.7%	1.7%	1.7%
	5イ		3.16	23.4%	69.4%	7.2%	0.0%
	3イ	「ぬまた未来創造学」を踏まえ、生活科や総合的な学習の時間を中心に、各学校で地域の伝統文化や歴史を学び、豊かな自然に触れる学習を計画的・系統的に実施し、子供たちが郷土を知り、郷土を誇りに思う心を育む。	3.43	45.3%	52.1%	2.6%	0.0%
	5ウ	児童生徒が多様性を認め合う人権教育の充実を図るとともに、社会で自立するための基礎的な能力や態度の育成に努める。	3.36	40.2%	55.6%	4.3%	0.0%
健やかな体	6ウ	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	3.36	40.2%	55.6%	4.3%	0.0%
	6エ	中学校における部活動の適切な指導の実施と、家庭・地域と連携して「心＝道徳面」の成長を重視した、道徳的実践の場とする活動の充実	3.34	43.3%	49.3%	6.0%	1.5%
	6オ		2.34	10.8%	33.3%	35.1%	20.7%
	6カ	子供の危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	3.35	37.9%	59.5%	2.6%	0.0%

2 結果の考察

(1) 確かな学力

第13次沼田市教育水準向上研究の第1年次として、市教委から新たな方針となる「2024学力向上対策」を掲げ、全小中学校と共通理解を図りながらスタートを切った。「2024学力向上対策」については、「先生の日」に市内全教職員に説明するとともに、学力向上対策フォーラムでは、その重点を指導主事から提言したり、校長会では授業参観のポイントを提示するなどして周知に努めたところ、市の方針に沿った組織的・計画的な研修や授業改善、学力向上対策が推進されたことが伺える。「対話と交流」を授業改善に取り入れた校内研修の推進は多くの小中学校で見られたが、「考えを深める」児童生徒の姿まで到達できないことが課題となっている。ICTを活用した授業は増加傾向にあるものの、各教科等の学びの本質に迫るためのICTの効果的な活用には課題が残る。取組の初年度であったので、「4」より「3」の評価をした割合が高いと考えられることから、第2年次は、引き続き、市教委方針となる「学力向上対策」の共通理解を図り、より一層の充実が図れるように努めていく。

(2) 豊かな心

1つ目と3つ目の項目については、昨年度とほぼ同程度の評価であった。1つ目の「特別な教科 道徳」については、約7割が「3」の評価であり、教科化となって数年が経過したが、道徳の授業のさらなる「充実」に向けての取組が求められる。3つ目の「人権教育」については、各小中学校が人権週間の取組を工夫したり、沼田東小学校の「地区別人権教育研究協議会」の取組を参考にしたりして、充実を努めている。2つ目の項目については評価が高くなっている。今年度から本格実施となった「ぬまた未来創造学」推進に向けて、多くの学校園が総合的な学習の時間等の年間指導計画の見直しを図り、地域と連携・協働した授業づくりを進めていることが伺える。

(3) 健やかな体

1つ目と3つ目の項目については、昨年度とほぼ同程度の評価であった。各主任が中心となり組織的な取組が進められていることが伺える。1つ目については、教科体育の充実に加え、業前や業間の時間を生かした運動の機会づくり、家庭との連携、学校保健委員会の取組など、各学校園で創意工夫をこらした取組がなされた。2つ目の項目「6エ 教育部活」は今年度から新たに項立てしたもののだが、健康の保持増進や体力の向上に直接結びつく評価項目の設定ではなかったことに加え、「6オ 部活動の地域展開」の進捗状況と関連させて評価していただいた可能性もあることから、評価が下がったものと考えられる。指導の重点や評価項目の適切な設定、部活動の環境整備等に努めていく。

令和6年度の研究指定等

指定・委託元及び年度	事業名	学校名等
令和6年度 文部科学省	発達障害のある児童生徒等に対する支援事業	沼田中学校
令和6年度 群馬県教育委員会	ぐんまの子どもの体力向上推進事業	薄根小学校
令和6年度 利根教育事務所	地区別人権教育研究協議会	沼田東小学校
令和6年度 沼田市教育委員会 ※群馬県教育委員会 研究協力校	非認知能力育成に向けたモデル校による実践研究	沼田小学校 池田小学校

編集後記

本年度も、多くの皆様に御協力いただき、本研究紀要を完成させることができました。

本年度は第13次沼田市教育水準向上研究の1年次として、研修主題である「社会の変化に主体的に関わり、未来社会を生き抜く力を身に付けた子供の育成」に向けた様々な取組を行いました。

年度初めに教育長より示された沼田市教育委員会グランドデザインを念頭に置きつつ、この1年の全市的な取組を振り返り、各研究部会の取組、研究指定校の実践、教育水準向上授業研究会、校内・園内研修等について改めて拝見いたしますと、沼田市の先生方が各学校園の教育課題に対して真摯に向き合い、「創造・協働・意思疎通」しながら尽力されたことがよく伝わってまいります。

特に、確かな学力を育てる質の高い授業づくりの推進として打ち出した「2024 学力向上対策」の最重点の一つでもある「対話と交流」を意識した授業が展開され、学校訪問の際には、子供たちが思いや考えを伝え合い、聞き合いながら解決に向かう姿がたくさん見られました。また、「ぬまた未来創造学」も確かな広がりを見せ始め、子供たちが地域に目を向け、地域の中で生き生きと取り組んでいる様子が聞こえてきます。そして、学力向上フォーラムの協議や公開授業の研究会、他校のB訪問への参加や、希望制の教職員研修（言向和平、スキルアップ研修）では、共に語り合い学び続ける教職員の活気と輝きを感じました。

このような様々な取組から感じた手応えとともに、今後解決すべき課題をしっかりと捉えて次年度につないでいくこと、そして、社会がどのように変化しようとも、子供たち自身が「未来社会を生き抜く力」を身に付けていけるように、私たちが失敗を恐れず創造的にチャレンジし、コミュニケーションをとりながら協働し、子供の力を信じて支えていくことへの思いを新たにしました。

結びに、研究の主体となって熱心に取り組まれた各幼稚園・小中学校の皆様、研究計画の作成・評価に貴重な御意見をくださった研究推進委員会の方々、御指導・御協力いただきました利根教育事務所をはじめとする関係各方面の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げ、編集のまとめといたします。

令和7年3月 吉日
沼田市教育委員会
指導主事 田島 晃代

*本冊子は、沼田市 Web ページに公開しています。URL (<https://www.city.numata.gunma.jp/>)